

地区の概要

当地区は都心から北西へ約11kmに位置し、古くは手稲町として栄えた歴史ある地区ですが、建物の老朽化や工場跡の大規模未利用地等の問題を抱え、地域の中心にふさわしい土地の高度利用と市街地環境改善のための計画的なまちづくりが望まれていました。

平成元年に「土地利用基本構想」を策定、平成4年度の「整備計画策定調査報告」等を経て、再開発事業や優良建築物等整備事業、手稲駅舎の橋上化や南北駅前広場の拡張整備等が順次進められました。また、駅に整備された交流空間である「自由通路」を中心に、南北の各地区を有機的に結ぶ空中歩廊が整備されたことで、人に優しく都市景観への配慮もなされた地区の顔にふさわしいまちづくりが進められています。

①手稲本町2・4地区

第一種市街地再開発事業

(平成7～10年度 個人施行)

コンセプトは、快適生活都心“手稲の創造”
地下には消防水槽も



キテネビル、ラボール手稲駅前

②手稲本町1・4地区

優良建築物等整備事業

(平成10～15年度 市街地環境形成タイプ)

駅直結の複合ビルに生まれ変わったハートビル法認定の老舗ホテル



テインステーションホテル、宮里ビル

④手稲本町1・3地区

第一種市街地再開発事業

(平成24～27年度 個人施行)

共同住宅と商業・医療施設による複合建築物より快適な歩行者空間を整備

③JR手稲駅北口地区

優良建築物等整備事業

(平成6～7年度 市街地環境形成タイプ)

駅前広場に隣接する北口の顔は空中歩廊で駅と区役所を結ぶ



メルシャン・プラザビル(※現イオン)



その他の駅周辺整備

- a 駅舎の橋上化(平成14年度完成)
- b 人にやさしいまちづくり整備事業(平成9～15年度)
自由通路整備、駅前広場の整備(南口・北口)

自由通路等の整備に関して行ったワークショップは、当時の札幌市において大規模施設の整備では初の試みでした。通路には「あいくる」という愛称も付けられ、手稲の情報発信基地として地域の交流の場にもなっています。